

17 格子文様更紗裂

染：コロマンデル海岸（インド）
収集：スマトラ島（インドネシア）
インド 18世紀
木綿、手描き
30.3×21.7cm
教育資料

18 花幾何学文様更紗裂

染：コロマンデル海岸（インド）
収集：スマトラ島（インドネシア）
インド 18世紀
木綿、手描き両面染め
30.3×21.7cm
教育資料

19 幾何学文様更紗裂

染：グジャラート（インド）
収集：スラウェシ島（インドネシア）
インド 18世紀
木綿、捺染
30.3×21.7cm
教育資料

20 花唐草文様更紗裂

染：グジャラート（インド）
収集：スラウェシ島（インドネシア）
インド 18世紀
木綿、捺染
30.3×21.7cm
教育資料

出品14～20は「ふくおか応援寄付」の寄付金により購入したインド更紗製20件のうちの7件です。主に18世紀から19世紀に、インド東部コロマンデル海岸もしくは西部に位置するグジャラート州を中心とする諸都市で生産され、インドネシアはスマトラ島で収集されたもの。

20件のうち**出品16～20**を含む18件を当館のアウトリーチ活動用の資料（「教育資料」）として購入しました。唐草文様や花文様、抽象的な幾何学模様など、インド更紗に見られる多様な文様を参加者が比較鑑賞するだけでなく、実際に手に触れて学ぶことも想定しています。

21 インド更紗貼交布

インド 17-19世紀
木綿
30.3×21.7cm
14-Hd-415

22 インド更紗貼交布

インド 17-19世紀
木綿
30.3×21.7cm
14-Hd-416

23 インド更紗貼交布

インド 17-19世紀
木綿
30.3×21.7cm
教育資料

出品21～23は、「ふくおか応援寄付」の寄付金により購入した「インド更紗貼交布」5件のうちの3件です。この5件のうち**出品23**を含む3件を「教育資料」として登録し、アウトリーチ活動に用いる予定です。

17世紀から19世紀につくられたインド更紗の小さな裂がフェルト上に整然と貼り交ぜ仕立てられています。インド更紗の文様の多様さをこの貼り交ぜ布一枚で鑑賞することができ、触れ、理解できる上、小さな裂になるまで大切に保管され、利用されるインド更紗の貴重さなども知ることのできる教材です。

24 花文様更紗腰布

コロマンデル海岸 スラウェシ島渡り
インド 19世紀
木綿
234×107cm
教育資料

本作も「ふくおか応援寄付」の寄付金により購入したインド更紗で、教育資料としての活用を予定しています。

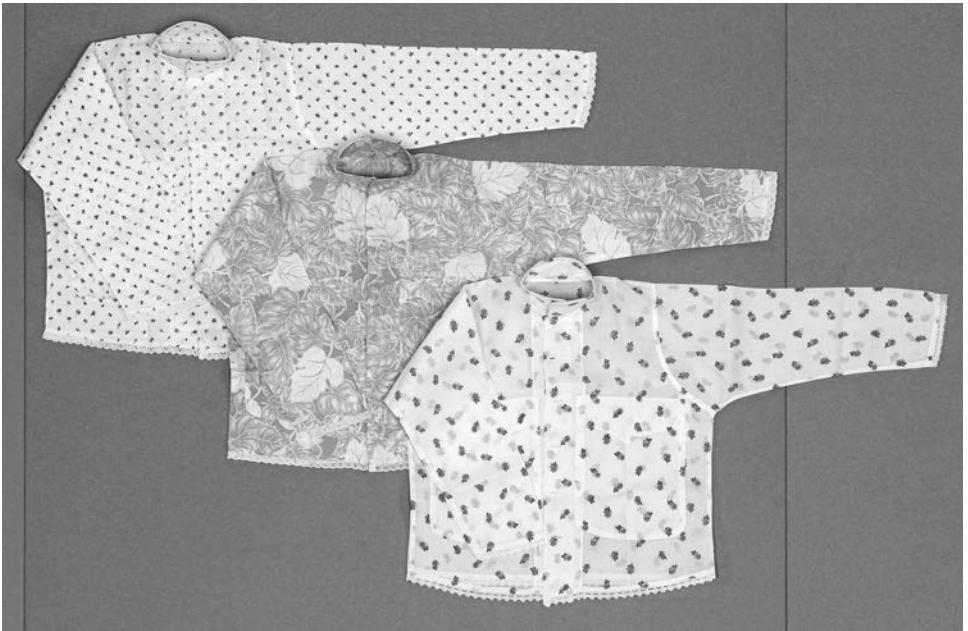
手描き媒染により、中央に緻密で華やかな花文様が白く浮かび上がります。そこに、青色が規則的に施され、アクセントとなっています。また、鋸歯文部分や中央の花柄紋を取り囲む帯状の部分には、植物文様に重ねるように細かいチェック柄が施されており、複雑で重厚な文様が描き出されています。

インドにおける更紗の主要な産地は、グジャラート州を中心とするインド西北部と、インド東部のコロマンデル海岸諸都市であり、本作は、19世紀にコロマンデル海岸で制作され、インドネシア（スラウェシ島）で収集されたもの。スラウェシ島からは、14世紀にさかのぼるインド産の更紗が発見されており、インド更紗の文様はスラウェシ島の染織文様にも多く取り入れられています。

新収蔵品展

会期 2022年3月30日(水)～5月29日(日)

会場 古美術企画展示室



出品4・5・6 ブラウス (バジュブンドゥック)



出品11・12 富士画贋 松永安左エ門筆



令和3年度（2021年度）、福岡市美術館の古美術部門には、寄贈や、「ふくおか応援寄付」の寄付金等による購入によって、計39件の美術品が新たに収蔵されました。本展では、それらの中から選んだ24件をお披露いたします。

貴重な蒐集品を福岡市美術館へ寄贈いただいた方々、当館のために寄付金をお送り下さった方々に、心より感謝申し上げます。



出品リスト・解説

※作品データは、出品番号、作品名、作者・产地等、時代、材質、サイズ(cm)、寄贈者名またはコレクション名、所蔵番号、作品解説の順で記載しています。いずれも該当するデータがない場合は省略しています。作品解説は全てに付しているわけではありません。

寄 贈

1 草花星文様刺繡ブラウス（バジュブンドウック）

織：ヨーロッパ 縫製：ペナン、マレーシア
1920-1930年代
木綿
58.5×136.3cm
リー・コレクション
23-Hd-47

2 内着（バジュダラム）

織：ヨーロッパ 縫製：ペナン、マレーシア
1920-1930年代
木綿
58.5×136.3cm
リー・コレクション
23-Hd-48

3 バラ文様ブラウス（バジュブンドウック）

織：不詳 縫製：ペナン、マレーシア
1950-1960年代カ
木綿
58.0×135.5cm
リー・コレクション
23-Hd-49

4 小花文様ブラウス（バジュブンドウック）

織：不詳 縫製：ペナン、マレーシア
1950-1960年代カ
木綿
56.0×133.0cm
リー・コレクション
23-Hd-50

5 植物文様ブラウス（バジュブンドウック）

織：不詳 縫製：ペナン、マレーシア
1950-1960年代カ
木綿
56.0×133.0 cm
リー・コレクション
23-Hd-51

6 バラ文様ブラウス（バジュブンドウック）

織：不詳 縫製：ペナン、マレーシア
1950-1960年代カ
木綿
58.5×130.0 cm
リー・コレクション
23-Hd-52

7 花格子文様綿オーガンジー布地

ヨーロッパ製
1920-1930年代
木綿
492.0×74.5 cm
リー・コレクション
23-Hd-53

8 二人の女性

撮影地：ペナン、マレーシア
1920-1930年代
ゼラチンシルバープリント
11.7×9.6cm
リー・コレクション
23-F-1

出品1～8は、シンガポールのリー・キップリー夫妻からの第3次寄贈によるものです。アジア染織のコレクターとして知られる夫妻のコレクション(通称「リー・コレクション」)は、プラナカン女性の衣装が充実していることに特徴があります。プラナカンとは、東南アジアに渡り現地人と結婚して定住した主に中国からの移民の子孫のことと、数百年にわたってアジア、ヨーロッパと交わりハイブリッドな文化を形成し、精巧な染めや巧緻な刺繡による独特の様式の衣装を創出しました。

当館には平成27(2015)年度に二度にわたってプラナカン関係の染織資料53件を寄贈され、自主企画展「サロンクバヤーシンガポール 麗しのスタイル」展(会期：2016年4月17日～6月12日)、「シンガポール・スタイル1850-1950 プラナカン・ファッショング100年の旅」展(2022年1月19日～3月27日)等で展示紹介してきました。

今回の8件は、1920年代のブラウスや内着に加えて、衣装を作るための布地、当時の様子をうかがわせる写真が含まれ、すでに夫妻から寄贈されているプラナカンの女性の衣装のコレクションを補完するものとして貴重です。

9 釈善聴像

三箇英之(1803-1876)筆、
仙厓義梵(1750-1837)贊
江戸時代 19世紀
絹本着色・掛幅装
78.2×27.7cm
原田芳幸氏寄贈
14-B-79

博多で活躍した禅僧・仙厓義梵が着贊した俗人肖像。像主の戒名は釈善聴、俗名は不明です。贊の内容や画中に紙に包まれた金が描かれることから、商売を生業とした人物であったと分かります。贊によると、像主は文政4年(1821)に亡くなり、着贊が同11年になされたことから、本図が七回忌に際して作られたことも判明します。また、朱文方印「三箇」白文方印「英之」の印章より、人物図を描いたのが、博多の町絵師・三箇英之(1803～1876)であったことも分かります。

仙厓が着贊した俗人肖像において、絵師の名が判明する例は珍しく、同主題の作例が制作された経緯などを考える上でも有益な資料といえます。

10 釈宗順・釈妙貞夫妻像 2幅対

作者不詳、仙厓義梵(1750-1837)贊
江戸時代 19世紀
絹本着色・掛幅装
66.6×26.7cm(各)
原田芳幸氏寄贈
14-B-78

釈宗順・釈妙貞という戒名を有する俗人夫妻の肖像。各幅の表具の背面に墨書銘があり、像主が真鍋直保なる人物とその妻であること、妻が文政4年(1821)に亡くなったこと、明治43年(1910)に真鍋利平なる人物によって表装がされたことなどが記されています。人物図の画風は仙厓と異なっており、職業絵師の手によるものとみられます。仙厓が着贊した俗人肖像は当館にも数点所蔵があるものの、いずれも像主が不明です。像主に関する情報が墨書銘によって知られる本作は、高い資料的価値を有しています。

また、本作の墨書銘を記したのが、一松山妙静寺の住職であることも注目されます。妙静寺は、福岡市南区に所在する浄土真宗寺院で、かつては博多区祇園町にあり、仙厓が住した虚白院とも至近です。仙厓が他宗派の寺院とも交友を持っていたことをうかがう上で最も貴重な作例です。

11 富士画贊「乾坤第一峯」

松永安左工門(1875-1971)
昭和37年(1962)
紙本墨画・色紙
24.1×27.1cm
大谷信義氏寄贈
14-B-81

12 富士画贊「来てみれば…」

松永安左工門(1875-1971)
昭和37年(1962)
紙本墨画・色紙
24.1×27.1cm
小野博氏寄贈
14-B-80

松永安左工門は長崎県壱岐の出身で、慶應義塾へ進学し、福澤諭吉に学びました。福岡での鉄道事業をきっかけに躍進し、全国の電力業界を代表する実業家となりました。「耳庵」と号する茶人でもあり、精力的に名品を蒐集しました。彼の蒐集品の多くは、東京国立博物館と福岡市美術館に所蔵されています。

出品11・12は、松永の満86歳の時の作。寄贈者の小野氏と大谷氏が慶應義塾高校の生徒であった昭和37年当時、松永のもとを訪ねた際に「勉学に励むべし」という訓示とともに贈られたとのこと。

どちらも富士山の威容を描き、それぞれに「乾坤第一峯」、「来てみればさほどでもなし富士の山 釈迦も

孔子もかくやあるらむ」(幕末の長州藩の重臣・村田清風の歌)と着贊しています。つまり一方で富士山は日本一の山といいながら、もう一方では富士山は大したことではないと言っているのです。常識にとらわれない果敢さで経済人として大事を成し遂げた松永らしい、若者へのエールということができるでしょう。

ちなみに印章の「鬼童窟」とは、西伊豆の景勝地として知られる堂ヶ島に松永が構えた別荘のことです。

購 入

13 加彩武人俑

唐時代 8世紀
陶製
高さ35.0 幅12.5cm
14-Ha-212

耳覆いのついた「盛」と呼ばれる兜をかぶる武人を表した俑(死者とともに埋葬された人形)です。前後で分けて型で成形して合わせ、焼成し、彩色して仕上げたと思われます。顔貌にみるふくよかな造形と、各所にのこる繊細で鮮やかな彩色などに盛唐期の俑の特徴がみられます。唐の武人俑としては珍しく大人しい姿をしており、あるいは武装した文官である可能性も考えられるでしょう。

松永安左工門の旧蔵で、『松永耳庵遺愛品図録』(財団法人松永記念館、昭和51年12月発行)にも掲載されています。箱の蓋表に「耳庵」印、身の側面には松永記念館のラベルが貼付され、松永が小田原・老樺莊で暮らした時代のコレクションであることが分かります。

以上のように中国陶俑の珍しい作例であるだけでなく、当館収蔵の松永コレクションを復元的に充実させる資料としても貴重です。

14 建築文様更紗裂

インド 16世紀
木綿
30.3×21.7cm
14-Hd-413

15 花文様更紗裂

インド 18世紀
木綿
30.3×21.7cm
14-Hd-414

16 花文様更紗裂

染：コロマンデル海岸(インド)
収集：スマトラ島(インドネシア)
インド 18世紀
木綿、手描き
30.3×21.7cm
教育資料